

氏名	難波克年
学位(専攻分野)	博士(医学)
学位授与番号	博乙第2458号
学位授与の日付	平成4年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Effect of Taurine Concentration on Platelet Aggregation in Gestosis Patients with Edema, Proteinuria and Hypertension (妊娠中毒症妊婦における血小板凝集能に及ぼすタウリン濃度の影響について)
論文審査委員	教授 産賀 敏彦    教授 木村 郁郎    教授 岡田 茂

#### 学位論文内容の要旨

妊娠中毒症は慢性血管内凝固の状態であり、凝血学的変化が指摘されているが、その原因は不明である。妊娠中毒症においては血小板凝集能の低下することが知られている。一方、タウリンは血小板凝集能を抑制することが知られており、しかも妊娠中毒症においては血小板内タウリン濃度が増大していることが最近明らかになった。そこで妊娠中毒症の血小板凝集能低下とタウリンとの関連性を検討した。

重症妊娠中毒症妊婦5例、正常妊婦5例、非妊婦5例の血小板内タウリン濃度を測定し、洗浄血小板を用いてADP, collagenによる血小板凝集能と放出能を測定した。その結果、重症妊娠中毒症ではその他の群に比較し有意に血小板内タウリン濃度は増加しており、血小板凝集能と放出能も低下していた。さらに非妊婦10例より採取した多血小板血漿を用いたタウリン負荷洗浄血小板モデルを作成し、ADP, collagen及び、カルシウムイオノフォアA23187による血小板凝集能、放出能を測定した。ADP, collagenによる血小板凝集能、放出能はタウリン負荷により有意に抑制されていた。A23187による血小板凝集能は血小板外Ca<sup>2+</sup>存在下において有意に抑制されたが、血小板外Ca<sup>2+</sup>非存在下においては血小板凝集能は有意差が認められなかった。放出能はCa<sup>2+</sup>存在、非存在下の両状況ともに有意差は認められなかった。

以上の結果より重症妊娠中毒症においては血小板内タウリン濃度の上昇が血小板放出能と血小板内へのCa<sup>2+</sup>の流入を抑制することによって、血小板凝集能を低下させ、凝固系のホメオスタシスを保つ一助となっていることが示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は妊娠中毒症に関する研究であるが、重症妊娠中毒症患者における血小板内タウリン濃度の上昇と血小板凝集能低下の関連に関して重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。